

乗鞍岳山スキー報告

【山城】北アルプス・乗鞍岳

【日程と天気】2016年3月26日 晴れ

【メンバー】CL菊池・薄井・会員外3名

【行程】道の駅八王「八王子・滝山」5:00-8:30 乗鞍観光センター-すずらん駐車場リフト3本-スキー場トップツアーコース入口(1925m) 9:37-切り開きツアールート-位ヶ原急斜面-台地-剣が峰と高天ヶ原の鞍部から下る沢地形に偵察に向かう-沢地形入口(2590m)-肩の小屋方向へ水平移動-標高2730m-滑走開始-ツアールート-ゲレンデトップ-駐車場-竜島温泉(510円)-帰葉



・最近わが会では山スキーに参加する方々の減少により、メンバー集めに苦勞する。10年以上前は船橋山の会メンバーと合同ツアーすることが多かったが、その後、ちば山の山スキーブーム到来でメンバー集めには苦勞しなかった。

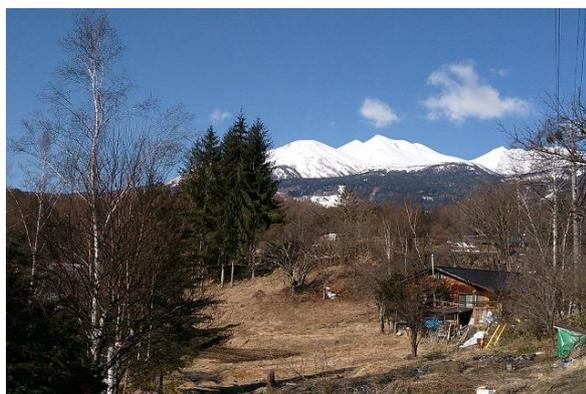
この数年、山スキーメンバーの高齡化、退会、そして若いメンバーの山スキー領域への参入が少ない状況が続いている。

そこで、今回は船山メンバーをお誘いし、また松本在住で元船山・ちば山会員であった I さんからの参加希望もあり、若い彼らとの合同ツアーとなった。

・例年この時期は上信越・谷川周辺の残雪期ツアーの旬の時期であり、これらのエリアで楽しんでしたが、今期は例年の半分くらいの積雪量のため、標高の高い乗鞍岳ツアールートを選択した。

乗鞍岳は他のエリアのツアーシーズンが終わってからの 5~6 月に、位ヶ原山荘・肩の小屋口までバスを利用してのツアーを 1~2 回、毎年のように行っていたが、今期は積雪が極めて少なく、今までにない早い時期に訪れることとなった。

松本 IC 間近になると鹿島槍などの後立山連邦の白い峰々が遠望でき、いがやスキー場あたりから望む真っ白な乗鞍岳にテンションは徐々に上がっていった。



先週末は寒の戻り、低温で乗鞍ツアールートは終始ガリガリの厳しい状況であった。今週末も再び寒の戻りで低温、標高 2000m 以上のルートは低温により懸念されたが、一昨日にわずかの降雪があり、幾分状況は好転していた。

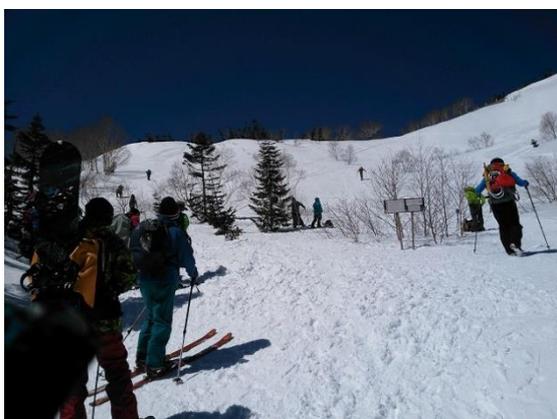
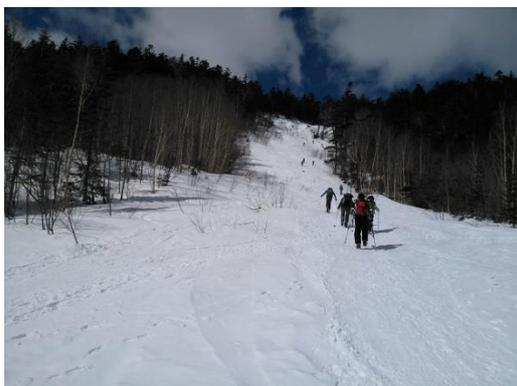
・スキー場トップのツアールート入口から間もなくの急斜面は日陰の急斜面であり、低温



の状態では上り下りとも最大の難関・核心部である。今回は初めからアイゼン装着でスキーを担ぎスタートしたが大正解であった。緩斜面のルートになりシール登行に切り替え快調に進んだ。

先週も乗鞍に来た船山の I さんの言では位ヶ原の急斜面ではシール登行はスキーアイゼンを装着していても難渋したとのこと。今回は数cmの降雪があったため、難なく台地に乗り

上げることができた。



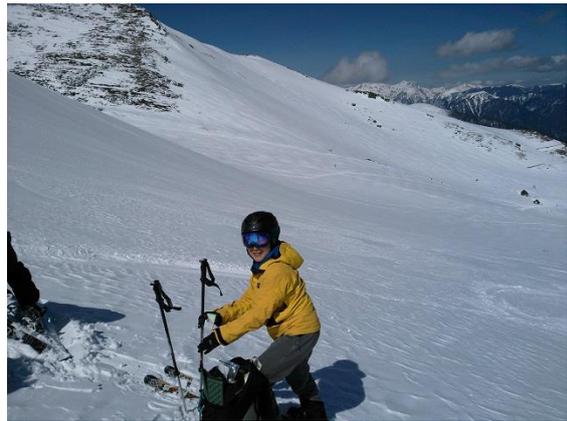
・行動食休憩の後、気になる剣が峰と高天ヶ原との鞍部から下る沢地形にパウダーが吹き溜まっていないものかと期待して偵察に向かうこととした。上部での降雪量も期待したより少なく、風で吹き飛ばされてのガリガリバーンが多く、パックされた薄いパウダーエリアとシュカブラ部分に新雪が残っているが狭い範囲であった。沢の入り口まで行ってみたが、期待は裏切られ、パウダーの吹き溜まりはなく肩の小屋方向へ転進した。



・先週末は蚕玉山からの急斜面滑走は厳しく、ヘリが舞っていたとのことであるが、今回



は数人の大回りターンのシュプールが刻まれていた。われわれは標高 2730m の急斜面に移る手前から滑走することとした。



シュプールの残るプチパウエリアを選んでなんとかターンを刻んだが、シュカブラ・ガリガリバーンなど変化に富む雪質の緩い大斜面をテレマーク技術のアドバイスをしながらゆっくり滑走した。





・位ヶ原急斜面やその下の林間でパウダーランが少しは楽しめるのではと登りでは期待していたが、下りではすでにクラスとしており、慎重に滑走した。緩斜面の切り開きに来ると、固い雪質のままであったが、滑りやすい状態。メンバーはそれぞれ思い思いのペースで快適なターンを楽しんでいた。ツアールート終盤の例の日陰の急斜面はやはり、最大の難関・日蔭のガリガリ怖々急斜面、横滑り・バランスの保持をメンバーに指示しながら慎重にゆっくり下った。ゲレンデに来るとそこはすっかりザラメ状態である。しばし休憩の後、ザラメが堆積したやや滑りにくい急斜面を無難にこなし、あとは駐車場までの快適ザラメ緩斜面のロングルートに余韻に浸りながら滑走して充実した一日は終了した。

